

3. Cisternography の診断学的意義について

都立荏原病院脳外科 許 瑞光
(昭和大学耳鼻咽喉科)

昭和大学 放射線科

菱田 豊彦 宗近 宏次 北原 隆

〔目的〕 近年、髄液の dynamic flow の研究に RI が使用され、その有用性については多くの報告がある。われわれは Cisternography の診断学的意義を、PEG, CAG, VAG, 脳シンチ等の補助的診断法と比較検討した。放射性医薬品は $^{169}\text{Yb-DTPA}$ と RISA を使用し、両者についても検討した。

〔方法〕 脊髄穿刺により、RISA 100~200 μCi , $^{169}\text{Yb-DTPA}$ 1 μCi 注入し、脳脊髄液の流れをシンチカメラで継続的に撮影した。

〔症例〕 われわれが行なった症例はテント上腫瘍、脳血管障害、頭部外傷後遺症、脊髄脳変性疾患、頭蓋底カン入、テント下腫瘍、痙攣発作など約60例である。

〔結果〕 症例の多くは、前記の補助的診断法を同時に行なっているが、Cisternography のみが陽性所見を示した。例えば、① 比較的早期診断の難しい Pineal-region の腫瘍、② 臨床的に聴神経腫瘍と考えられながら、Cisternography および手術によって Pars Glioma と解ったもの、③ 脊髄腫瘍と診断され、治療されながら脳脊髄液の通過障害が見い出されず、正常の像を示し、腫瘍の否定されたもの、④ 頭部外傷後遺症の痙攣発作や半身マヒを伴っていた症例では、Cistern への isotope の摂取は不均一となり、PEG のみではえられなかった所見を示し、EEG の結果と一致したもの、⑤ 脊髄脳変性疾患は脊髄腫瘍や Pars Glioma と誤診され易いが、正常な像を示し腫瘍否定の有用な補助的診断法となったもの、などが含まれている。また RISA と比較して $^{169}\text{Yb-DTPA}$ には次のような利点があった。① 脳脊髄液中で何ら変化をうけず、前処置は不必要で、② 製品の安定性も非常に高く、shelf life が長く、③ 生物学的半減期が短かく、 β 線を放出せず大量投与ができ、より一層鮮明な像がえられ、④ 副作用は全く認められなかった。また、 $^{169}\text{Yb-DTPA}$ と RISA では、多少その動態が異なり、Cistern に到達する時間は、 $^{169}\text{Yb-DTPA}$ の方が速かった。これは分子量の違いが1つの原因となっていると考えられる。

〔結論〕 Cisternography は単なる dynamic flow study に役立つのみでなく、各種補助診断法で、異常所見を呈さなかった症例の診断にも役立ち、手術適応の有力な手がかりがえられた。

4. 外科的領域の RI 診断：

甲状腺疾患における ^{131}I Scanning の診断的意義

信州大学 第2外科 牧内 正夫

甲状腺疾患の外科的治療にあたって、 ^{131}I scintiscanning の果す役割は種々あるが、このうち最も重要なものは腫瘍の良性、悪性の鑑別診断、ならびに甲状腺の形態、位置異常の診断である。われわれは、過去10年間に甲状腺手術 2,137 例を行ない、その経験から、甲状腺疾患の外科治療の指針として ^{131}I scintiscanning の必要性をしばしば強調してきたが、今回これらの経験例の scintigram を再検討し、外科治療の指針としての意義について述べたい。

1. 甲状腺結節の良性、悪性の鑑別

甲状腺結節の scintigram においては、癌、腺腫ともに cold nodule が多く、両者を鑑別することは困難である。しかしながら、癌および腺腫の多数例について、結節の ^{131}I 摂取状況と、結節の大きさ、あるいは腺内における占居部位などとの関係を検討した結果、良性例、悪性例の間に差異がみとめられた。したがって、これらの点に留意して scintigram を判読すれば、良性、悪性の鑑別診断上有効な検査法であると考えられる。

2. 甲状腺の形態、位置異常

正中顎嚢胞と甲状腺形成不全との鑑別、一側腺葉欠如例と Toxic adenoma との鑑別、あるいは胸内甲状腺腫の診断など、われわれの経験例における scintigram の意義を検討した結果、scintiscanning はこれら症例の診断ならびに治療上極めて有力な検査法であることを認めた。